

# 事業報告書

(平成29年度)

学校法人 智香寺学園

# 目 次

## 1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等	1
(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1
(3) 役員・教職員概要	2
① 役員	
② 教員	
③ 職員	

## 2. 事業の概要

(1) 平成29年度事業の概要・実施状況	3
大学部門	
① 「次世代自動車関連」の活動報告	
② 宗門大学としての取り組み「寺フェス」報告	
③ 科学研究費・その他の補助金助成事業	
④ 地域交流計画の実施状況	
⑤ 主な施設設備計画の実施状況	
⑥ キャリア支援センター・就職事業状況	
高校部門	15
① 平成29年度卒業生進路について	
② クラブ活動実績について	
③ 平成30年度高校入試結果について	
④ 財政の健全化	

## 3. 財務の状況

(1) 概況	18
(2) 事業活動収支の状況	18
(3) 資産負債の状況	19
(4) 連続貸借対照表の状況	20

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等

(平成29年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	システム工学専攻	平成10年4月	6		12
	電子工学専攻	平成19年4月	7		14
	応用化学専攻	平成19年4月	7		14
	(博士後期課程)				
	システム工学専攻	平成12年4月	2		6
	電子工学専攻	平成22年4月	2		6
	応用化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	115		455
生命環境化学科	平成19年4月	110		430	
情報システム学科	平成19年4月	135		535	
工学部小計		360		1,420	
人間社会学部					
情報社会学科	平成14年4月	90		370	
心理学科	平成14年4月	50		210	
人間社会学部小計		140		580	
大学合計		551		2,108	
正智深谷高等学校	全日制課程 普通科	昭和32年4月	400		1,200
高校合計		400		1,200	
法人合計		951		3,308	

(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(平成29年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	システム工学専攻	6	7		13
	電子工学専攻	7	11		15
	応用化学専攻	7	5		17
	(博士後期課程)				
	システム工学専攻	2	1		4
	電子工学専攻	2	5		20
	応用化学専攻	2	0		3
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	10	3		4
	心理学専攻	15	8		15
	大学院小計	51	40		91
	工学部				
	機械工学科	115	133		498
生命環境化学科	110	82		420	
情報システム学科	135	201		704	
工学部小計	360	416		1,622	
人間社会学部					
情報社会学科	90	78		308	
心理学科	50	49		202	
人間社会学部小計	140	127		510	
大学合計	551	583		2,223	
正智深谷高等学校	全日制課程 普通科	400	477		1,243
高校合計	400	477		1,243	
法人合計	951	1060		3,466	

## (3) 役員・教職員概要

## ① 役員

(平成29年5月1日現在)

理事・監事の 区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山俊一	平成23年4月
理事 (非常勤)		浅野義光	平成27年9月
理事 (非常勤)	財務担当	宇都宮孝和	平成19年4月
理事 (常勤)	理事長	松川聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	佐藤良純	昭和52年7月
理事 (常勤)	学校長	加藤慎也	平成28年4月
理事 (非常勤)		神居文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪行雄	平成19年4月
理事 (常勤)		佐藤由美	平成29年4月
理事 (非常勤)		緒方延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)		宇高良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		今岡達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷仁海	平成19年7月
監事 (非常勤)		高丹秀篤	平成28年7月

## ② 教員

( )内は兼担を示す

部 門	専任教員	兼務教員	合 計
大学院	(57)		(58)
先端科学研究所	2(18)		2(18)
工学部	49	96	145
人間社会学部	20	54	74
大学計	71	150	221
正智深谷高校	57	41	98

## ③ 職員

部 門	専任職員	兼務職員	合 計
法人部門	5		5
大学部門	59		59
高校部門	10		10
合 計	74		74

## 2. 事業の概要

### (1) 平成 29 年度事業の概要・実施状況

#### 大学部門

① 学内プロジェクト「次世代自動車向けのものづくり研究」を今年度も継続して実施し、本学オリジナルの次世代自動車「SAIKO カー」の製作を目標に、研究・開発に取り組んでおります。設計・製作チームでは超軽量車体構造の設計・解析を行っており、金属素材の選定等も完了し、完成へ向け一部車体部品の製造を開始しております。



自動運転チームでは、アクセル・ブレーキ・ステアリング制御システムの構築、制御用ネットワークの構築を行い、構築したシステムを電気自動車コムスへ搭載し、実験を行っております。コムスで動作実験を行い、来年度は SAIKO カーへの搭載を目指しております。

**埼玉工業大学が公道で自動運転実証実験を開始します**  
平成29年12月1日(金)から平成31年3月31日(日)まで

**目的**  
本学が誇る最先端の自動運転技術を実証し、公道での走行能力を向上させること。

**実施内容**  
公道での走行実験、信号認識や周辺認識・衝突回避に関する実験。

**安全性について**

- 自動運転中の運転席には、運転免許を持つ自動運転システムを十分に理解した運転手(パイロット)が手を添えながら乗車します。
- 専用道路の自動運転システムを事前に設計・検証済みで、一般的な車道と同様の安全性が確保されています。
- 警察署や交通管理センターとの説明・事前連絡の上、実施します。

SAIKO 埼玉工業大学

自動運転車 ZMP ロボカーにつきましては、今年度は学内での試験走行だけではなく、自動車学校の教習コースをお借りしての実験走行を行い、公道に近い環境で、信号認識や周辺認識・衝突回避についての実験を実施しました。学内、教習コースといった限られた区域内での走行の他、公道での走行を行えるよう、センサー類の換装・強化を行い、内閣府戦略的イノベーション創造プログラムの大規模実証実験に参加し、東京臨海地域周辺の公道に於いて走行実験を実施しました。また、地元である深谷市のご協力の下、埼玉県内初となる公道に於ける自動運転実証実験を深谷市内の公道に於いてスタートさせ、12月13日に多くのご来賓の

方々にご臨席を賜り、始走式を挙行了いたしました。深谷市での実証実験では、冬期の強風に伴う砂嵐など、深谷市ならではの気象条件下での自動運転実現に向けて取り組んでおります。公道での実証実験は、いずれも平成30年度末まで実施予定で、来年度は高速道路などの自動車専用道路での実験も予定しております。



② 浄土宗の宗門大学として、本学、大正大学、淑徳大学、関東所在の宗立宗門三大学が連携して、仏教を気軽に楽しく体験してもらおうイベント「寺フェス」を平成29年10月8日（日）本学の学園祭同日「ものづくり研究センター」で開催しました。

「寺フェス」は浄土宗が宗立・宗門大学と連携して行ってきた「寺院と地域連携」に関するシンポジウムで、第2回となった平成28年11月「仏教の魅力をどう伝えるか」の案として、学生からあげられた「地獄・極楽体験」が原案となり、3校の教職員と学生有志が主体となって準備を進め、「寺フェス」として具現化となりました。

日頃より地域連携活動に取り組んでいる宗立宗門大学の学生ならではの視点で考えた「地獄」と「極楽」を体験してもらい、もっと仏教を身近に感じてもらうと企画されました。また、寺院関係者をはじめ大勢の方々に学生たちの取り組みを通して、宗門大学の特徴・活動を知ってもらおうと同時に、大学間の連携強化をはかりました。来場者は総計600名を超え、学園祭内でも人気ブースとなりました。



③ 科学研究費・その他の補助金助成事業・科学研究費補助金の獲得（日本学術振興会）  
※平成29年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	29年度 直接経費	29年度 間接経費
基盤研究（B）	新規	先端科学研究所	丹羽 修	5,600,000 円	1,680,000 円
基盤研究（C）	新規	情報社会学科	佐藤 由美	1,000,000 円	300,000 円
若手研究（B）	新規	機械工学科	小板 丈敏	2,300,000 円	690,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	内田 正哉	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	渡部 大志	400,000 円	120,000 円
基盤研究（C）	継続	機械工学科	趙 希禄	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	継続	機械工学科	安藤 大樹	800,000 円	240,000 円
若手研究（B）	継続	生命環境化学科	秋田 祐介	1,100,000 円	330,000 円

基盤研究 (C)	継続	情報社会学科	田中 克明	1,200,000 円	360,000 円
基盤研究 (C)	継続	機械工学科	石原 敦	1,400,000 円	420,000 円
基盤研究 (C)	継続	生命環境化学科	木下 基	1,700,000 円	510,000 円
基盤研究 (C)	継続	生命環境化学科	秦田 勇二	1,400,000 円	420,000 円
若手研究 (B)	継続	生命環境化学科	松浦 宏昭	800,000 円	240,000 円
若手研究 (B)	継続	機械工学科	長谷 亜蘭	1,200,000 円	360,000 円
若手研究 (B)	継続	生命環境化学科	本郷 照久	900,000 円	270,000 円
計			15 件	21,000,000 円	6,300,000 円

・平成 29 年度中小企業経営支援等対策費補助金（戦略的基盤技術高度化支援事業（関東経済産業局））

事業名：「高効率成型システムを有する複合材向けオートクレーブの研究開発」

研究者：工学部生命環境化学科 矢嶋龍彦教授

補助対象経費：919,100 円（内間接経費 30%）

※長野県テクノ財団から再委託事業

・平成 29 年度「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）

（A コース：科学技術体験コース）：国立研究開発法人科学技術振興機構

負担対象費用確定額：2,036,895 円 返還額：301,652 円

・平成 29 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」（文部科学省）

（次世代インターネットの利用環境整備に向けた産学官連携資格認定プログラム）

委託事業費：16,821,475 円

・研究成果展開事業 地域産学バリュープログラム（国立研究開発法人科学技術振興機構）

研究開発課題名：「放電とマイクロバブルを利用した衝撃波選択的微細金属バリ取り技術の研究開発」

研究者：工学部機械工学科 小坂丈敏講師

研究開発費：2,332,000 円（内間接経費 10%）

・「寧波市一埼玉工業大学 産業イノベーション研究センター」設置と業務に関する協定  
（平成 28 年 5 月 24 日協定締結）

1. 平成 29 年度事業報告：寧波賽高 TLO センター重金属排水処理関連事業化開発

（1）寧波 A 社洗浄混合排水（調整池）の実験

（2）寧波市大型めっき工場にて本生産ラインの水処理実施計画

2. 今後の事業計画：エネルギー関連事業化開発（寧波 TLO を通しての販売）

（1）上海高層ビル エレベータ回生電波受電システム

（2）寧波多機能型レドックス電池試験システム

3. 運営経費補助金（28 年度）：7,626,663 円

〃 （29 年度）：8,086,000 円

④ 地域交流計画の実施状況

高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

【平成 29 年度までの教育連携協定校 35 校】

1. 正智深谷高等学校	13. 埼玉県立秩父農工科学高等学校	25. 平方学園明和県央高等学校
2. 埼玉県立久喜工業高等学校	14. 埼玉県立妻沼高等学校	26. 埼玉県立川口工業高等学校
3. 埼玉県立深谷商業高等学校	15. 群馬県立高崎工業高等学校	27. 埼玉県立浦和工業高等学校
4. 埼玉県立熊谷工業高等学校	16. 群馬県立藤岡工業高等学校	28. 埼玉国際学園（日本語学校）
5. 埼玉県立児玉白楊高等学校	17. 群馬県立藤岡中央高等学校	29. 埼玉県立羽生第一高等学校
6. 埼玉県立寄居城北高等学校	18. 日々輝学園高等学校	30. 大妻学園大妻嵐山高等学校
7. 埼玉県立深谷高等学校	19. 埼玉県立進修館高等学校	31. 埼玉県立滑川総合高等学校
8. 埼玉県立深谷第一高等学校	20. 群馬県立太田工業高等学校	32. 埼玉県立狭山工業高等学校
9. 群馬県立伊勢崎工業高等学校	21. 埼玉県立皆野高等学校	33. 栃木県立宇都宮工業高等学校
10. 群馬県立前橋工業高等学校	22. 群馬県立吉井高等学校	34. 埼玉県立新座総合技術高等学校
11. 長野県坂城高等学校	23. 埼玉県立川越工業高等学校	35. 桐生市立商業高等学校
12. 山梨県甲府市立甲府商科専門学校	24. 埼玉県立大宮工業高等学校	

公開講座・地域連携事業・高大連携

・公開講座・地域連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉工業大学公開講座 (6月9日～7月1日)	・英語コミュニケーション講座（日常会話）	グレッグ 氏	21 人
	・バイオテクノロジー講座～ヒトの暮らしをより良くするために、微生物の多彩な機能を利用する！	秦田 教授	46 人
	・日英比較表現講座～英語学習における基本姿勢 —非生活言語学習にとって重要なこと—	永本 教授	36 人
	・現代の物理学講座～目に見えるプラズマ	佐藤（進）准教授	31 人
	・最先端ものづくり講座～親子で学ぶ 現代のものづくりと未来のものづくり	長谷 講師	28 人
	・キッズ向け体験学習講座～「ビスケット」で簡単プログラミング！	松田 准教授	26 人
	・異文化体験講座～19 世紀イギリスの詩を読む	斉藤（昭）教授	31 人
	・キッズ向け体験学習講座～「スクラッチ」でプログラミング体験！	橋本 准教授	20 人



・公開講座・地域連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
SAIKO フェア (10月8日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究展示 (7 研究室)</li> <li>・ 集まれ科学実験プロジェクト</li> <li>・ 深谷商業高・寄居城北高・大宮工業高校</li> <li>・ 坂城高校による学習成果発表</li> </ul>	高坂研究室 前田研究室 吉澤研究室 古谷研究室 檀上研究室 田中研究室 秋田研究室 井門特任客員教授	----
埼玉県産業教育フェア (11月11日・12日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 光材料化学研究室内の紹介</li> <li>・ 微生物応用研究室内の紹介</li> <li>・ エネルギー制御工学研究室内の紹介</li> <li>・ プログラミング体験教室ー地域連携事業ー</li> </ul>	木下 准教授 秦田 教授 石崎 准教授 井門 特任客員教授	----

・埼玉県・深谷市との連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
子ども大学ふかや (7月29日～11月11日)	入学式	埼玉工業大学	50人
	①「アニメはなぜ動いて見えるのか？」	埼玉工業大学 (曾我 教授)	
	②「工場見学」アイスクリームができるまでのひみつ	赤城乳業 (本庄)	
	③「さとうの甘 (あま) いわな」	東都医療大学	
	④「子どもでもできるよ！赤ちゃんのかんご」	東都医療大学	
	⑤「Let's enjoy making!! みんなで、ウインドカーを作ろう!!」	埼玉工業大学 (小板 講師)	
	⑥「体験しよう！ふるさとの食文化や地域の達人の技」～すいとん作り	深谷青年会議所	
	⑦「学園祭」・「成果発表会を楽しもう」	埼玉工業大学	
⑧「修了式」			

・埼玉県・深谷市との連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
第3回 深谷ものづくり博覧会 (3月4日)	・自動運転プロジェクト紹介	石崎研究室 安藤研究室	----
	・映像配信技術協力	前田研究室	
	・次世代自動車プロジェクト・自動運転システム車展示	渡部研究室	
	・集まれ!!科学実験プロジェクト	学生プロジェクト	
	・ロボット研究プロジェクト	学生プロジェクト	
	・セグウェイ試乗		

・高大連携校との連携授業（協定校）

講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉県立熊谷工業高等学校 (5月24日)	・大学紹介 ・講義 自動運転 ・コムス自動運転の操作体験及び解説 ・施設見学	安藤 准教授 石崎 准教授	37人
埼玉県立熊谷工業高等学校 第1学年集会講演会 (5月22日)	人権対策講演会	宮井 教授	300人
群馬県立伊勢崎工業高等学校 バス見学 (6月13日)	・大学紹介 ・生命環境化学科講義体験 ・施設見学	浜名 教授 岩崎 教授 長谷部 教授 秋田 講師	38人
埼玉県立川越工業高等学校 インターンシップ (6月24日)	・実験実習 ・大学講義体験	松浦 准教授	7人
埼玉県立寄城北高等学校 インターンシップ (7月11日)	・大学紹介 ・施設見学	井門 特任客員教授	25人
埼玉県立寄居城北高等学校 (7月31日～8月2日)	・CG教室	井門 特任客員教授	25人

・高大連携校との連携授業（協定校）

講座名	テーマ	講師	参加人数
群馬県立高崎工業高等学校 インターンシップ (8月1・2日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学紹介及び学科紹介</li> <li>・生命環境化学科施設見学</li> <li>・実験実習</li> </ul>	有谷 准教授	2人
埼玉県立川越工業高校 インターンシップ (8月9・10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学紹介</li> <li>・施設見学</li> </ul>	松浦 准教授	7人
埼玉県立深谷高等学校 バス見学 (8月8日・9日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HTML及びRasPiについて</li> <li>・IPとpingと通信、Apacheのインストール</li> </ul>	前田 講師	30人
埼玉県立羽生第一高等学校 バス見学 (9月11日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進化するものづくりー3Dプリンターがつくる未来ー</li> <li>・3Dプリンター見学</li> <li>・体験実習</li> </ul>	井門 特任客員教授 森沢 教授	31人
日々輝学園高等学校 バス見学 (9月13日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学紹介</li> <li>・インターネットの仕組みと利用方法</li> <li>・インターネットの現状と将来</li> <li>・施設見学</li> </ul>	佐藤（進）准教授 関口 准教授	50人
群馬県立藤岡中央高等学校 バス見学 (10月12日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命環境化学科紹介</li> <li>・生命環境化学科施設見学</li> <li>・講義体験(ミラクルフルーツ)</li> </ul>	熊澤 教授	40人
群馬県立太田工業高等学校 (11月13日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械分野へのIoTの活用に関する最新状況</li> <li>・身振りでコンピュータと会話するためのヒューマンコンピュータインタラクション技術</li> </ul>	河田 准教授 鯨井 准教授	40人
群馬県立伊勢崎工業高等学校 大学見学 (12月13日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学紹介</li> <li>・模擬授業「強い材料とは」</li> <li>・施設見学</li> </ul>	上月 教授	77人
日々輝学園高等学校 (12月19日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを作ってみよう</li> <li>・デジタル時代のモノづくり~CGプログラミングを体験してみよう~</li> </ul>	先端研 嶋田康伸 伊丹 講師	25人
群馬県立高崎工業高等学校 (12月19日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学講義体験</li> <li>・施設見学</li> </ul>	岩崎 教授 石川 教授 木下 准教授 秋田 講師	40人
埼玉県立川越工業高等学校 インターンシップ (12月22日)		松浦 准教授	

・高大連携校との連携授業（協定校）

講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉県立熊谷工業高等学校 インターンシップ (1月30～2月2日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学構内見学及設備メンテナンス</li> <li>・大学案内及びホームページチェック</li> <li>・PC清掃他</li> <li>・電気施設関係点検他</li> </ul>	教育研究協力課 情報基盤センター 企画広報課 管財課	3人
埼玉県立秩父農工科学高等学校 バス見学 (2月7日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学講義体験</li> </ul>	橋本 教授 長谷 講師	79人
桐生市立商業高等学校 (2月16日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web活用のスクラッチプログラミング</li> <li>・SNS・スマホ安全講習</li> </ul>	井門 特任客員教授	42人
埼玉県立妻沼高等学校 (3月14日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携事業「埼玉工業大学授業体験」</li> </ul>	熊澤 教授 関口 准教授 小寺 教授 長谷 講師 小野 教授 曾我 教授	30人

・坂城町との連携事業

講座名	内容	講師	参加人数
坂城高校文化祭 (8月27日)	葛尾祭での出品・出展	教員2名 学生2名	
中学生を対象とした講座 (坂城中学) (9月15日)	「プログラミング」	井門 特任客員教授	27人
坂城町 PR と交流の促進 (10月7日)	埼玉大学園祭（秋桜祭）ブース出展 特製品（りんご）販売		----
坂城高校 (10月9日)	埼玉大学園祭（秋桜祭）出展		20人参加
坂城高校 (1月24日)	SNS 講演会 「高校生のためのスマホ安全講座」	植竹裕一氏	1年生全員
さかきふれあい大学での講座 坂城町講座 お出かけ編 (小学生対象) (3月10日)	埼玉県立川の博物館と埼玉工業大学見学	井門 特任客員教授	20人

・坂城町との連携事業

講座名	内 容	講 師	参加人数
おもしろ理科実験 (3月20日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液体窒素の不思議</li> <li>・味の不思議を体験しよう</li> <li>・見方を変えれば見えてくる「気になる光学現象」</li> <li>・電気をつくる、くだもの電池探検隊</li> </ul>	浜名 教授 熊澤 教授 木下 准教授 松浦 准教授	40人
坂城町との連携会議 (3月28日)	事業計画の協議、事業実績評価報告	井門 特任教授 吉澤 教授 石川 教授 佐藤(進) 准教授 石崎 准教授 古谷 准教授 井上 准教授 荒井 助教 事務局 2名	----

・臨床心理センター

セミナー名	テーマ	担 当	参加人数
土曜セミナー	性格について(6月17日)	友田 教授	93人
	トトロは本当にいるのかもしれない(7月15日)	三浦 教授	91人
	押入れ、机の下、段ボール箱—子供が好んで入り込む小さな空間—(9月16日)	藤巻 准教授	84人
	色の心理学・色の組み合わせ(11月18日)	大塚 教授	74人
	犯罪心理学 Q&A(12月16日)	小野 教授	71人
ワークショップ	心理学実験を体験してみよう(9月2日)	曾我 教授	9人
	箱庭療法の体験(6月1日~10月26日:全5回)	三浦 教授	述数 29人
幼児グループ	子育て支援(年26回)	友田 教授 藤巻 准教授	幼児延数 158人

⑤ 主な施設設備計画の実施状況

26号館3・8・9F空調設備更新工事	39,960千円
24号館地下女子シャワールーム改修工事	2,916千円
1号館134.144室改修工事(追加含)	3,082千円
26号館1階小ホール及び就職課改修工事	10,231千円
第6変電所高圧ケーブル更新工事	9,999千円
サッカー人工芝グラウンド散水栓改修工事	1,058千円
2号館231,232,242,243教室LED照明器具本体交換工事	2,346千円

## ⑥ キャリア支援センター・就職事業状況

### 地域交流（長野県及び坂城町等）

- (1) 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携協定に係る事業に基づき、就職活動を控えた3年生を対象に2日間企業見学を実施し、工学部を中心に学生が参加した。参加人数9月7日（24名）・9月8日（24名）
- (2) 2月の「企業研究セミナー」に、坂城町の企業8社、岡谷市2社、上田市3社、茅野・諏訪からも6社が参加した。

### 学生就職支援講座・ガイダンス

- (1) 公務員対策講座は、8月～9月に「筆記試験対策講座」を集中的に開講し、2月～3月上旬直前対策講座を設け、受講者を対象に全国公開模擬試験（地方上級・大卒公安型）を学内に於いて実施した。
- (2) 1年生は、入学後に就職ガイダンスを実施すると共に、適性検査を受けた。更に、3年後の就職活動を見据え、進路希望登録（SAIKOナビ）の登録を実施した。また、これからの学生生活を充実して過ごしてもらうため、希望者には個別面談を実施した。  
2年生は、就職ガイダンス、インターンシップガイダンス等を実施した。  
3年生は、前期には各種就職試験模試、インターンシップガイダンス、Uターンを考える講座を実施、後期には就職ガイダンスのほかに、様々な就職活動準備講座を実施した。
- (3) 筆記試験対策として新たにe-ラーニング（SAIKOドリル）を導入した。  
タブレットやスマートフォンで学生の好きな時間に筆記試験対策ができる教材で、約100人の学生が利用した。
- (4) 12月に大手企業を集め「業界研究セミナー」を実施した。
- (5) 3年生対象の「自己分析講座」18回、「面接実技講座」9回、「志望動機作成講座」10回、を複数回実施した。面接対策については、昨年度まで実施していた合宿研修を廃止し、より気軽に参加できる「面接実技講座」へと変更した結果、113人の学生が参加した（昨年比：41人増）。面接実技講座に参加できなかった学生のために「集団面接練習（4人定員：1時間）」を12回実施し、33人の学生が参加した。
- (6) 次期就職活動を見据えて、学部3年生・大学院1年生を対象とした「学内業界研究セミナー」を5日間開催し、延べ1,413名が参加した。

### 関東地区大学理工系就職研究会

- (1) 年間4回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。
- (2) 7月19日に工場見学会、12月4日・5日に地方セミナーを実施し、企業担当者との情報交換を行った。

#### 各県就職情報交換会

- (1) 群馬県・長野県・新潟県・富山県・宮城県等、各県主催の就職情報交換会に出席しU-Iターン就職希望者への情報とした。
- (2) 埼玉県・群馬情報サービス産業協会主催の意見交換会に参加した。

#### 合同就職説明会及び個別就職説明会

- (1) 未内定者を対象に学内で3月～6月、8月～12月の期間、個別説明会と一次選考を延べ128社実施した。
- (2) 8月に埼玉県大学就職問題協議会加盟17大学が主催し、埼玉県中小企業家同友会・埼玉県情報サービス産業協会・りそな銀行の関係3団体の協力を得て、17大学合同企業説明会をさいたま市のホテルブリランテ武蔵野で開催し、60社の企業が集まり、本学から17名の学生が出席した。

#### 講義

- (1) キャリア支援科目の講義を前期に6コマを実施。3年生455名、1年生399が履修。グループディスカッション実践、履歴書の書き方等、就職支援を目的とする講義で実施。

#### 海外研修引率

- (1) 3年生を対象とした本学主催のアジア研修を実施。春・夏の2回で合計本学の学生28名を引率。

夏：LETS (Leadership Education & Training program for Students)

日程：事前研修 8/13、本研修 8/24 - 8/31、事後研修 9/17

開催地：ベトナム（ダナン、ホイアン）

春：LETS (Leadership Education & Training program for Students)

日程：事前研修 2/22、本研修 3/08 - 3/15、事後研修 3/31

開催地：ベトナム（ダナン、ホイアン）

※他大学からの参加者を含め合計40名を引率

#### 交換留学協定

- (1) ベトナム国立 ハノイ国家大学、ダナン大学との友好協定締結。現時点で本学から4名が交換留学への参加を希望している。

#### 学生面談

- (1) 3～5月がピーク。キャリア支援センターの教員やキャリアカウンセラーが担当。ピーク時は1人の教員が1日約20名の学生に対して進路指導、書類添削等を実施。

#### 面接練習会

- (1) これまで外部委託していた面接練習会を学内で実施。2月から19回集団面接練習会を行い、約70名が練習会に参加。

#### その他の事業

- (1) 埼玉産業労働部の補助事業として、3年生を対象に埼玉県企業（明治(株)・(株)リード）の工場見学会を行った。併せて群馬県企業（山崎製パン(株)・(株)ミツバ）の工場見学も実施した。埼玉 30 名、群馬 30 名の学生が参加した。
- (2) 5月20日（土）に3・4年生保護者対象の就職ガイダンスを実施した。3年生保護者 155 人、4年生保護者 99 人の参加があった。
- (3) 埼玉労働局の大学ジョブサポーター常駐により、未内定者の個別対応を実施した。
- (4) 6月に未内定者の保護者宛に学内での合同企業説明会の案内を行った。
- (5) 平成 25 年度より週 3 日キャリアカウンセラーによるカウンセリングを実施している。平成 28 年度よりカウンセラーと就職課職員による研究室訪問も実施した。
- (6) 3年生の就職活動が活発になる年度末に本学独自で雇用したキャリア・アドバイザーの個人面談を週 3 日実施した。
- (7) 諏訪圏地元企業・高校教員との情報交換会を実施した。



高校部門

① 平成 29 年度卒業生進路について

平成 29 年度卒業生 314 名の進路状況は以下の通りとなりました。本年度は卒業生数が昨年より 30 名程度少ないこと、併せて特進クラスの在籍生徒数が近年では最も少ない年となりました。

毎年、進路目標として掲げている「国公立大学 30 名合格」を実現することは叶いませんでしたが、特進クラスの生徒数が少ない中であっては、生徒諸君は健闘してくれました。しかしながら GMARCH をはじめとする人気校における入学定員遵守方針の影響から、日東駒専など中堅大学の絞り込みも軒並み厳しくなり、合格実績としては例年よりも低調な結果に終わりました。本校の生徒の大学受験に関しては現役志向が高く、安定型の受験をする傾向が強く見られました。また、地方の難関国立大学合格レベルの実力を有しながらも、自宅からの通学の可否を優先して受験大学を決める生徒も多く、合格の可能性が極めて高い生徒でも、知名度の高い地方国立大学は避ける傾向にあったこともその遠因として挙げられます。

また、埼玉工業大学への進学については、毎年目標としている内部進学者 45 名を大きく下回る結果となってしまいました。入学金免除、初年度授業料半額免除など内部進学の特典については十分浸透してきているものの、他大学から本校に付与される指定校推薦枠の増加もあり、近年内部進学者数の伸び悩みが続いています。現在は他大学への進学を希望する生徒が多い現状ですが、引き続き高大連携委員会を中心に、付属大学の魅力と内部進学の特典措置について発信し、一人でも多くの生徒にとって、進学先の一つとして選択してもらえ体制作りをしていきたいと思っております。

◆卒業生進路状況

	26 年	27 年	28 年	29 年
卒業生数	344	373	340	314
四年制大学	79.1%	72.9%	72.6%	78.0%
短期大学	1.7%	2.9%	2.1%	1.9%
専門学校	10.8%	13.4%	11.8%	11.5%
就職	6.1%	6.2%	7.6%	5.7%
進学準備	2.3%	4.6%	5.9%	2.9%

◆四年制大学

	26 年	27 年	28 年	29 年
国公立大学	31	32	22	14
私立大学	439	416	404	308
合計	470	448	426	322

◆国公立大学合格者 14 (3) 名 ※ ( ) 内は既卒生

埼玉	1	静岡	1 (1)	群馬県立女子	1
群馬	4	金沢	1	都留文科	1
宇都宮	1 (1)	埼玉県立	1	釧路公立	1
山梨	1	高崎経済	1		

◆私立大学合格者 308 (27) 名 ※ ( ) 内は既卒生

埼玉工業	24	法政	6 (1)	日本	7 (1)
慶応義塾	1	成蹊	4 (1)	東洋	28 (3)
上智	1 (1)	成城	3 (2)	駒澤	7
東京理科	1	明治学院	2	専修	4
明治	3	芝浦工業	3 (1)	文教	7
立教	3 (1)	武蔵	3	東京電機	2
青山学院	5	獨協	6	その他の私立大学	177 (15)
中央	3 (1)	國學院	2		
学習院	2	東京農業	4		

② クラブ活動実績について

本校にはトップアスリートクラブ（強化クラブ）として、男子6クラブ、女子3クラブ（野球・サッカー・ラグビー・男女バスケットボール・男女バレーボール・男女卓球）を設置しています。各クラブ共に全国大会出場を目標に、日々練習に励んでいます。また、一般クラブとして、運動系12クラブ、文化系14クラブが設置されています。今夏の全国高校総体（インターハイ）には、男子バスケットボール部と女子卓球部の2クラブが出場し、将棋部（女子）が全国高等学校総合文化祭に出場し、第5位に入賞しました。

また、12月に開催された全校高校選抜大会（ウィンターカップ）には男子バスケットボール部が6年連続7度目の出場を果たしました。3月には女子卓球部が全国選抜大会、男子ゴルフ部（個人）が全国高校選手権に出場しました。今後も各クラブの活躍を期待すると共に、生徒諸君が部活動を通して多くのことを学んでくれることを期待しています。

③ 平成30年度高校入試結果について

一昨年、昨年と募集定員の360名を大きく上回る450名超の新入生を迎える年が続きました。今年の生徒募集においては、学力基準値の引き上げを図り、対外的な評価を高める戦略的な試みを行いました。偏差値（SS）の基準値を5ポイント引き上げることに対しては、その影響が大いに心配されましたが、種々のデータに基づいたシミュレーションにより実施に踏み切りました。また、偏差値だけでは測れない受験生の学校内外での取組みを、多面的に評価する新しい評価基準（SGP/Shochi Ganbari Point<sup>ショウチ ガンバリ ポイント</sup>）を取り入れ、受験生の様々な能力を点数化して学力基準に加算することが可能になりました。その結果、受験生全体の総数こそ若干減少したものの、入学生については443名と3年連続して募集定員を大きく上回る結果となりました。少子化傾向が続く中、このような結果で新年度を迎えられることは何よりの喜びです。学則定員400名を3年連続して上回り、全校生徒が1,300名を超えるのは実に平成10年以来となります。市場の縮小というマイナス要素が大きい中でも、今年のような結果で終えることができたことにはいくつかの要因が考えられますが、何よりも「国・県による私学助成制度の充実」が大きいところです。近年、大阪府や東京都の例を見るまでも無く、埼玉県においても私立学校に対する助成金増額の追い風が吹いています。今後も私学助成の引き上げの流れは続くものと予想され、この波に乗り遅れることなく、教育内容の更なる充実を図り、在校生の満足度を高めていくことこそが、本校の永続的な発展に繋がるものと確信しています。今後も募集定員確保のために、日常の取組みを継続しつつ、新しい教育活動への取組みを進めるために、教職員一同、一致団結して努力していく所存です。

平成29年度生徒募集結果（平成30年度入学者数）

※SS=Standard Score／偏差値

系統	特別進学系		総合進学系	
	Sコース	Hコース	Iコース	Pコース
	SS 65	SS 60	SS 55	SS 50
男子	15	21	75	70
女子	21	17	65	154
合計	36	38	140	229
	74 (16.7%)		369 (83.2%)	

#### ④ 財政の健全化

私立高校を一企業として捉えた場合、収支の均衡を図りながらも教育内容の充実に努めることは至上命題です。本年も以下の3項目を課題として掲げ、その解消のための努力を続けてきました。

##### (1) スクールバス経費の圧縮

##### (2) 奨学金額の適正化

##### (3) 1クラス当たりの生徒数の適正化

- (1) については、有料化を視野に検討してきましたが、現実的に考えた場合、そうすることのデメリットの方が大きいため、有料化ではなく、路線の縮小ならびに見直しによって、課題の解決を図っていくことを計画として掲げました。各方面への予告はある程度進めることができましたので、次年度の生徒募集より具体的な告知を始めていきたいと考えています。在籍生徒数全体の三分の一のみにかかる経費としては、莫大な金額となっていることを鑑み、今後も計画的かつ段階的に実施し、その影響を最小限に食い止めつつ、経費の圧縮を図っていきます。
- (2) については、段階的に取組みを進めていますが、国、県からの補助金の増額ならびに年収制限の緩和により、これまで同様の奨学金額であっても、実際の学校の持ち出し分は減少しているため、全体の奨学金額の圧縮は十分可能です。今後もスポーツ奨学生を中心に、より効果的な人材への先行投資を行っていきたいと考えています。
- (3) については、平成29年度の入学生456名に対して、13クラスでのクラス編成としました。その結果、1クラス当たりの生徒数が35名となり、全年度より大幅に改善することができました。さらに、平成30年度入学生については、6コースを4コースに再編した結果、443名に対して12クラスでのクラス編成が可能となり、結果的に1クラス当たり37名での運営となる見込みです。こうしたバランスのよい生徒募集を継続し、38名～40名規模でのクラス運営が全てのコースで実施できるよう、努力を続けていきたいと思っております。

### 3. 財務の概況

#### (1) 概況

平成29年度資金収支の状況は、平成28年度減少に転じた学生生徒等納付金収入が若干持ち直し増加に転じたが、手数料収入、寄付金収入、雑収入などが減少し、全体として大きな減収となった。また、支出に目を向ければ、平成28年度で大きな設備投資も完成したことにより、施設関係支出、設備関係支出が、大きく減少することとなり経費面の圧縮が図られた。

学生募集の状況は、大学においては平成28年度生の募集で定員割れとなり収入減への懸念もあったが、平成29年度生の募集では定員以上を確保することができ、平成30年度生においても両学部において定員を確保することができた。また、高校においても平成28年度より3年続けて募集定員を大幅に超える実績を示すことができたことにより、資金収支の改善が期待される。

#### (2) 事業活動収支の状況

事業活動収入（以前の帰属収入）では、前年対比327百万円の減少で4,462百万円、事業活動支出は前年対比15百万円増加となり4,524百万円、基本金組入前当年度収支差額（以前の帰属収支差額）は279百万円の収入超過から62百万の支出超過へととなった。

主要科目での前年度比較は以下のとおり

	H28年度	H29年度	増減
学生生徒等納付金	3,421	3,426	5
補助金(施設設備含む)	756	761	5
人件費	2,560	2,459	△ 101
（退職金）	(262)	(117)	(△ 145)
教育研究経費	1,485	1,586	101
（内減価償却費）	(494)	(569)	(75)

連続消費収支の状況 ～平成26年度まで

(単位 百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
帰属収入合計 (A)	4,232	4,320	4,351	4,867	4,986
（内 学生生徒等納付金）	(3,123)	(3,346)	(3,359)	(3,520)	(3,531)
（内 補助金）	(811)	(660)	(761)	(978)	(1,046)
基本金組入額	278	267	180	558	628
消費収入合計 (B)	3,954	4,053	4,171	4,309	4,358
消費支出合計 (C)	4,259	4,198	4,198	4,515	4,471
（内 人件費）	(2,503)	(2,502)	(2,417)	(2,655)	(2,622)
（内 教育研究経費）	(1,276)	(1,264)	(1,322)	(1,366)	(1,415)
消費収支差額 (B) - (C)	△305	△145	△27	△206	△ 113
帰属収支差額 (A) - (C)	△27	122	153	352	515

連続事業活動収支の状況 H27年度～

科目名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増減
教育活動収入 (A)	4,530	4,487	4,435	△ 52
(内 学生生徒等納付金)	(3,506)	(3,421)	(3,426)	(5)
(内 補助金)	(673)	(721)	(761)	(40)
(その他)	(351)	(345)	(248)	(△ 97)
教育活動支出 (B)	4,431	4,495	4,480	△ 15
(内 人件費)	(2,606)	(2,560)	(2,459)	(△ 101)
(内 教育研究経費)	(1,456)	(1,485)	(1,586)	(101)
教育活動収支差額 (A) - (B)	99	△ 8	△ 45	△ 37
教育活動外収入 (C)	5	4	4	0
教育活動外支出 (D)	15	13	10	△ 3
教育活動外収支差額 (C) - (D)	△ 10	△ 9	△ 6	3
経常収支差額 (決算)	89	△ 17	△ 51	△ 34
特別収入 (E)	268	297	22	△ 275
特別支出 (F)	5	1	33	32
特別収支差額 (E) - (F)	262	296	△ 11	△ 307
基本金組入前当年度収支差額	350	279	-62	△ 341

(3) 資産負債の状況

今年度の資産負債の状況は、総資産で385百万円減少、総負債は323百万円の減少となり、純資産で62百万円の減少となった。

固定資産は、有形固定資産で投資額312百万円(現物寄付を含む)に対し、減価償却・除却等で653百万円の実績で340百万円の減少、特定資産、その他の固定資産の増減と併せて、固定資産合計では16,669百万円の残高となる。流動資産は2,118百万円から2,066百万円に減少、現金預金は増加したが、未収入金の減少が要因となっている。

負債勘定は、固定負債で長期借入金金の減少149百万円の減少を中心に他の増減と合わせ147百万円減少、流動負債は175百万円の減少で1,145百万円、負債合計は2,732百万円となった。

純資産の部は16,003百万円と前年対比62百万円減少したが、うち繰越収支差額は219百万円支出超過が増加し10,188百万円となり翌年度へ繰り越すこととなった。

## (4) 連続貸借対照表の状況

(単位 百万円)

科 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
固 定 資 産	15,189	15,659	16,495	17,001	16,669
流 動 資 産	3,037	2,829	2,545	2,118	2,066
資産の部合計	18,226	18,488	19,040	19,119	18,735

固 定 負 債	1,930	1,718	1,942	1,734	1,587
流 動 負 債	1,376	1,334	1,312	1,320	1,145
負債の部合計	3,306	3,052	3,255	3,054	2,732
純資産の部合計	14,920	15,435	15,786	16,065	16,003
(内 翌年度繰越収支差額)	(△9,632)	(△9,347)	(△9,300)	(△9,969)	(△10,188)
負債及び純資産の部合計	18,226	18,488	19,040	19,119	18,735